

日下遺跡の馬

放射性炭素年代測定法の適用事例として、東大阪市日下遺跡から出土した馬の全身骨格を紹介します。測定の結果、馬は12歳前後のオスで、体高は約125ないし130 cm、蒙古馬系の中型馬に属するものと判定されています。年代は390～535年と判定されていて、当館の常設展示にて陳列している、四條畷市葦屋北遺跡の事例と同じく、古墳時代の馬であると推定されます。

古墳時代の馬の全身骨格が残っている事例は非常に珍しく貴重です。

ちなみに、日下遺跡の馬は肋骨が19本あるのに対し、葦屋北遺跡の馬は18本しかありません。馬は個体によって、肋骨の数に違いがあるのです。